

# うたのぼり・癒しの森「音夢路」利用促進研究会

## ■ 事業者の概要

- 所在地 : 枝幸郡枝幸町 (歌登)
- 運営主体 : うたのぼり・癒しの森「音夢路」利用促進研究会
- 取組内容 (分類) : 地域環境保全  
【ホームページ】、【Facebook】、【Instagram】・・・なし



## ■ 活動経緯・内容

- 平成19年9月にオープン。
- 旧歌登町と旧枝幸町は、平成18年3月20日に合併し、新枝幸町になったが、歌登自治区は、将来地に住むみんなが、元気で明るく、そして町外から多くの方々が訪れてもらえるよう、そして地域の活性化に繋がる活動を進めるために地元建設会社が事務局となり、社有林を開放して研究会を立ち上げた。
- 会員は、設立当時、181名 (平成20年) 。以降、会員数の確認はしていないが、新規で加入した会員はいない (自然減している) 。
- 主な活動は、会員自ら森林・散策路 (音夢路) の環境整備を行い、「森林を育てる、活用する、利用する」中の一環として、音夢路を散策する「ウォーキングの集い」を毎年5回開催している。

## ■ 活動状況

- 当初と変わらず年間5回のウォーキングを実施 (近年、参加者は年々減少してきている) 。
- H29年には、ふるさと納税の感謝ツアーを町が遂行する。
- ※枝幸町へ多額のふるさと納税をしていただいた方を対象に癒やしの森「音夢路」のウォーキングを開催。
- R1年には、枝幸町で開催された北海道のB&G海洋センター会議において、癒やしの森「音夢路」のウォーキングを実施する。

## ■ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- 地元建設会社の当時の会長と森林組合長が、強いリーダーシップの元、地域活性化と地域貢献のために始めた。
- 会長は亡くなったが、現社長 (2代目) と森林組合長が意思を引き継いでおり、諸活動に変更が生じなかった。

## ■ 活動継続の要因

- ウォーキングのマンネリ化を防ぐため、様々なイベントを企画し実施している。  
※山の上で歌う、サクラランボの種飛ばし等
- 林野庁が所掌する「森林山林多面的機能発揮対策交付金事業」を積極的に活用し、散策路の維持、整備管理をしている。(H26から3年間)
- ウォーキングの開催情報を町の広報や新聞の折り込み広告を活用し、町民に知らせる。
- 活動を拡大することなく、当初からほぼ同じ活動。  
※これからも住民主体として活動していく。
- 設立当初の思いを現在も引き継いでいる (森林組合長と2代目社長が先代の思いを継承)
- これまで自ら売り込みおことはしてない。決して無理をしない活動に終始。
- 町民のためのものであり、研究会としても発展、拡大を望んではいない。

## ■ 活動の成果

### 1) 活動実績 (評価軸の指標 (データ))

- 参加者数の推移 (年間実施回数)

平成19年38名 (1回) ⇒ 平成21年100名 (3回) ⇒ 平成23年159名 (5回) ⇒  
平成25年122名 (5回) ⇒ 平成27年117名 (5回) ⇒ 平成29年88名 (5回) ⇒  
平成30年81名 (5回)

## 2) 活動が地域に及ぼした影響

○H29年、ふるさと納税の感謝ツアーを町が遂行。

※枝幸町へ多額のふるさと納税をしていただいた方を対象に癒やしの森「音夢路」のウォーキングを開催。

○R1年、北海道のB&G海洋センター会議において癒やしの森「音夢路」のウォーキングがプログラムに入る。

○森林の役割の理解向上により林業振興の一翼を担うとともに、旧歌登町住民の交流と健康増進、都市部や他地域との交流が継続して行われている。

○老若男女が参加し定着感があり、又、その活動は地域コミュニティーに繋がっている



## ■ 今後の展望

○町民が参加しやすいよう、高齢者の参加が多いので、全体9km散策を3.8km（山だけの散策に変える検討）に短縮する検討をしている。

○現状維持で活動を継続。これからも地元への恩返しの気持ちを込めて活動すべきと考えており、発展拡大していくことは考えていない。

## ● まとめ

○本団体は、地域の自然資産としての森林を、森林所有者の森林管理とそれを利用して恵みを楽しむという活動がうまくかみ合っているため、身の丈に合った無理の無い範囲で活動が展開されてきている。

○健康志向のもとウォーキングは老若男女が参加しており、安定感が感じられる。

○散策路の整備に当たっては、森林にある木材を活用して木響板、休憩用椅子等の設置や、散策路に木材チップを敷設するなど、森林の恵み・魅力を表現している。

○また、参加者に喜ばれた「キノコ採り」を受けてキノコのほだ木の増設や、樹齢350年のミズナラ巨木への通路が整備されている。

○歌登市街や函岳を展望するビューポイントの整備など、音夢路の魅力を更に引き出す取組を続けている。この結果、散策、遊びや学びなど子供からお年寄りまで参加できる環境がつけられている。

○活動の情報は、札幌でのイベント（枝幸町主催）等でのパネル展や事例紹介により発信しており、金融機関の情報誌で取り上げられている他、地元観光協会が作成した冊子にも紹介されている。これら活動の結果、管外の林業関係のグループ（士別）や漁業関係者など、広い範囲から音夢路利用の問い合わせと利用者の訪問が相次いでいる。遠方からの問い合わせ等は、音夢路の利用に止まらず地域情報の発信や観光への波及も将来的に期待できる。



◇お話をいただいた事務局長の横山さん(R2. 2.10取材)

